

新潟市立東山の下小学校



学校データ

【学級数】

34学級

【児童数】

862人

【地域コーディネーター

の有無】

有

自分で問題を見付け人々とかかわりながら追求を続ける子どもの育成

1 はじめに

当校の地域は協力的で子どもたちを地域で守り育てるという意識をもっている。その中である方から、地域での学習が学校と地域の両者にとって価値ある活動になっているとは言えないという指摘を受けた。つまり「活動については学校の計画が先にあり、学習したことをまとめて発表するにとどまり、その先の発展が地域に生かされていない。これでは、地域を大切に思う心は育っていかないのではないか」というのである。

そこで、研究部を中心に改善のポイントを「自分の力を役立てて地域を守る子ども」を育てることとし、「子どもたちが自分たちの力で守れるものは何だろう」という視点で活動を再構成した。その結果、次のように系統を揃え、6年間学ぶことで地域の課題を自分なりに解決する一連のプログラムとなるよう組織した。

1年生…遊びを通して地域に親しむ活動

2年生…町探検を通して地域を知る活動

3年生…じゅんさい池での調査活動を通して地域の課題に気付く活動

4年生…老人福祉施設や企業訪問を通して地域の暮らしを見つめる活動

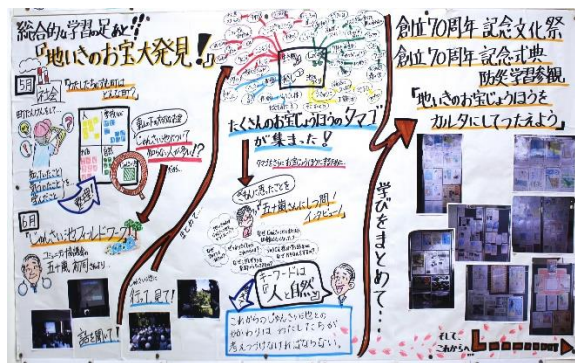
5年生…通船川での体験・調査活動を通して地域の将来を考える活動

6年生…地域の先輩に生き方を学び、地域貢献について志をもつ活動

2 取組の実際

「地域のお宝大発見」(第3学年)

3学年は単元のゴールを「まちのお宝情報をカルタで発信しよう」と設定し、以下のように学習を進めた。



学習の流れのマッピング

(1) 町探検を通しての情報収集

2年次の生活科や社会科と関連付け、地域の宝を見つけて内容を整理・分類をした。じゅんさい池について知らないことが多いことに驚く子どもが多かった。

(2) 地域の方から話を聞く

分類した情報からさらに疑問や課題が挙がったため、コミュニティ協議会の方を招いてじゅんさい池について教えてもらう機会をもった。

(3) 視点を決めてのフィールドワーク

話を聞いた後、実際にじゅんさい池へ調査に行った。水生生物や植物など子どもたちは観察する視点をもって調査を行った。



じゅんさい池での調査

(4) 地域貢献の主張点の形成

講話やフィールドワークから子どもたちは外来種の問題や桜を保存している地域の願いを知る。最終的に地域の宝とは「自然と歴史と人の力」であり、それを自分たちの力で守って行かなければならないという考えに至る。

(5) 大型カルタの作成



子どもたちが作成したカルタ

(6) カルタからの発展

カルタを作って終わりとするのではなく、まとめとして生かすために次の手立てを講じた。

- ① 区役所での展示や東区まちづくりセミナーでの発表を通じて地域と学校との学びの循環を作る。
- ② 2年生とカルタで交流をすることにより校内での学びの連続を図り、継続した地域に働きかけを目指す。

3 成果と課題及び本実践で育成された資質・能力

(1) 本実践で育成された資質能力

<知識・技能>

- ・様々な方法で情報を集め、集めた情報を整理、分析する力

例) 新聞記事を調べる。資料の長文を読む。過去の事例に当たる。

<思考力・表現力・判断力>

- ・得た情報から課題を設定し、探求的な学習を経ることで自分なりの表現でまとめる力

例) シンキングツールを使ってより良い方法を導く。カルタ作成、交流、展示に至るまでの活動を企画する。

<学びに向かう力、人間性>

- ・地域の良さや課題に気づき、他と協力しながら解決しようとする力

例) 自分の頑張りが誰かのためになるという思いをもつ。みんなが一つの力になれるという自信を得る。

(2) 成果

予定していた活動後も地域の方との交流が進み、新たにじゅんさい池のしだれ桜を学校で育て増やしていくという活動に進展した。これにより、一連の学習が学校と地域の両者にとって価値ある活動となったといえる。

(3) 課題

見直しからまだ日が浅く、今後も実践を積み重ねる必要がある。また、学年や教職員による差のないプログラムとして確立させていきたい。

4 おわりに

地域との活動は、たくさんの「もの」と「こと」と「ひと」をつなぐことで成り立つ。これからも学校は協働の意義を確かめながら取組を進める必要がある。